

1.1. 現状把握・認識

(1) 身の回りの危険の所在の把握

小集団 危険箇所の調査

地域のすみずみまで目が行き届く小集団が主体となり、事故につながる恐れのある危険箇所の実態調査を行います（確認した危険箇所の改善等については、34ページの「作業環境の改善」に記します）。客観的な視点からも危険箇所を調査・抽出するため、調査メンバーには自治体やJAの職員にも加わってもらうことをお勧めします。

また、過去の事故情報を振り返ることが可能であれば、過去の事故発生箇所の現状を調査し、危険が残存していないかを確認します。

調査の対象は、農道や共同利用している格納庫など、共用の施設・場所が主となりますが、「圃場やハウスなど、私有地内の調査の観点を知りたい」などの要望があれば、調査のサンプルとして場所の提供に協力してくれる人を探し、私有地内を含めた調査を実施します。調査結果は、“身近な例”として座談会の場などで紹介するとよいでしょう。

自治体・JA 危険箇所の調査の支援

自治体・JAは、

- ・ 過去の事故情報の提供（どのような場所で事故がよく起きているか？）
- ・ 調査の観点をまとめたチェックシート等の作成・提供
- ・ 調査への人材派遣

などを通じて、小集団の調査の支援を行います。

 参考事例

5.5. 高萩市農業機械士協議会

危険箇所の調査の観点

参考情報

身の周りに潜在する危険を学ぶ際には、次のような資料が参考になります。

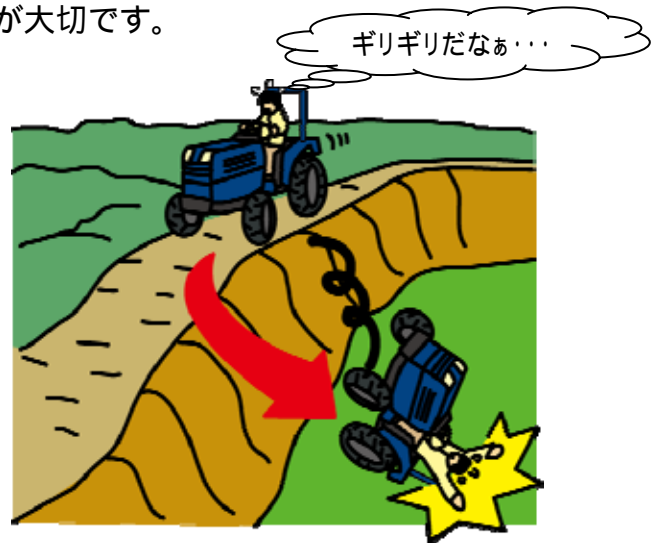
発行者	タイトル	発行年
農林水産省	農業生産工程管理(GAP)の共通基盤に関するガイドライン -3 労働安全を主な目的とする取組	2010
農林水産省	農作業安全のための指針	2002
生研センター	農作業現場改善チェックリストと解説	2000

危険要因の増大

農業機械の大型化や農業者の高齢化の進展等によって、従来までの農作業環境と農業者の作業・行動との間にミスマッチが生じ、事故につながる要因が増大しています。危険箇所の調査は、高齢者の視点も加えて実施することが大切です。

農業機械の大型化

- ・ 農道の幅が狭い
- ・ 圃場の進入路の強度・構造が不適切
- ・ 格納庫の入口・容量が小さい



高齢者の身体機能の低下

- ・ 段差で躓きやすい
- ・ 傾斜で転びやすい
- ・ 作業中にバランスを崩しやすい
- ・ 暗い場所でモノが見え難く、事故につながりやすい



(2) 心身機能の変化の認識

小集団 認識の機会の創出

高齢者は、“豊富な知識・経験を持っている”、“判断力、統率力を備えている”などの良い面がある一方で、加齢に伴う心身機能の低下という負の面もあります。この負の面の変化を自覚していないと、結果として無理な行動（不安全な行動）につながりやすくなります。

自分自身の心身機能の衰えを自覚することに対して抵抗感を抱く人もいますが、無理な行動による事故を防ぐためにも、構成員一人ひとりに心身機能のチェックに取り組んでもらうように促します。その際には、「衰えを自覚したくない」という高齢者の気持ちを十分に配慮してください。

チェック方法としては、次ページに紹介するツール等が活用できます。座談会で毎年1回定期的にチェックする機会を設けるなど、常に心身機能の変化を自覚してもらうようにします。

自治体・JA 広報誌等を通じた認識の重要性の伝達

自治体・JAは、農業者および家族に対し、心身機能の変化を自覚することの重要性を知ってもらうために、チェックの重要性や心身機能を鍛え直すトレーニング方法などを広報誌やホームページ等の媒体を通じて発信するとよいでしょう。

また、地元で企画・開催するイベントにおいて、心身機能をチェックするコーナーを設置し、来場者に体験してもらいながら、自覚の重要性を浸透していくような方法もあります。



- 5.2. 佐賀市担い手育成総合支援協議会
- 5.3. JAえちご上越

身体機能の測定方法

身体機能をチェックするツールの例

1. 農作業安全啓発学習ソフト
(農林水産省)

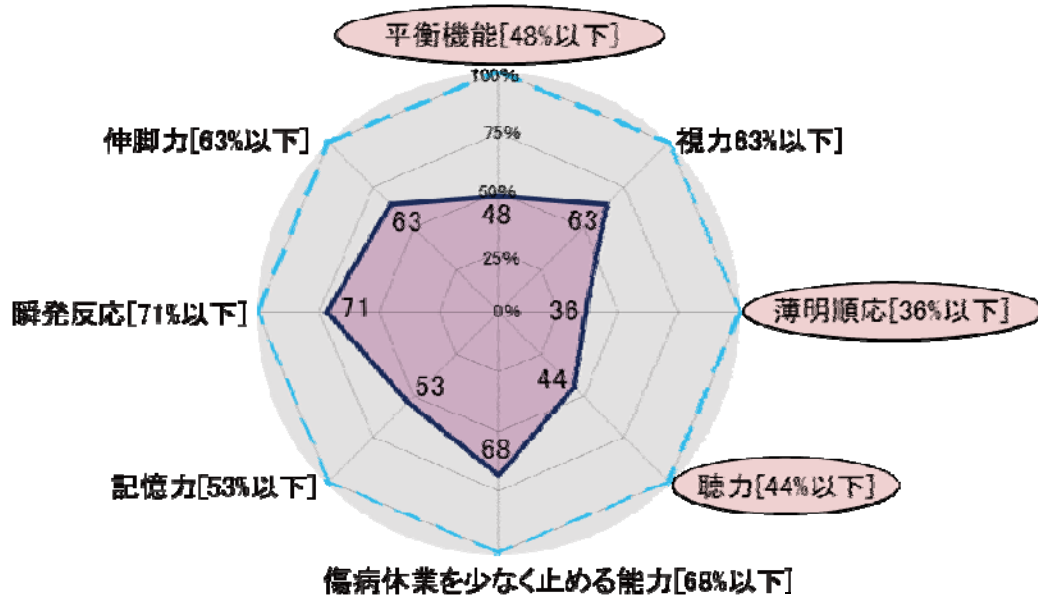
2. 転倒等リスク評価セルフチェック
(中央労働災害防止協会)

計測項目	評価
立位体前屈測定	柔軟性
指関節の動き	俊敏性
片足立ち時間	平衡感覚



計測項目	評価
2ステップテスト	歩行能力・筋力
座位ステップングテスト	敏捷性
ファンクショナルリーチ	動的バランス
閉眼片足立ち	静的バランス
開眼片足立ち	静的バランス

加齢に伴う心身機能の低下



20歳～24歳ないし最高期を基準(100%)としてみた55歳～59歳の機能水準
 ———— 線で囲まれる8角形は55～59歳の各種機能
 (身体機能の項目で **○** は、50%以下と機能低下の著しい項目)

出展:「斉藤一、遠藤幸男:高齢者の労働能力(労働科学研究所1980)を要約」